青梅市文化財ニュース

第259号

平成21年5月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町1-684 Tel0428-23-6859）

ムカシトンボとムカシヤンマ

日本には181種類のトンボが生息するとされていますが、この中に「ムカシ」という名前が付くトンボが2種類います。

トンボは、今から2億3千万年前に始まる中生代三畳紀～ジュラ紀の地層から化石が発見されていて、地球上に姿を現してから2億年以上の歴史を持つ昆虫です。進化を続けながら現在のたくさんの種類に枝分かれしてきましたが、中には原始的なトンボの形質を残している種もいます。そのため「昔」という名前を付けられたのがムカシトンボとムカシヤンマです。

「生きている化石」として有名なムカシトンボの仲間（ムカシトンボ科）は、古代トンボの一群で世界に2種類います。その一つが日本固有種のムカシトンボ、もう一つはヒマラヤに生息するヒマラヤムカシトンボです。ムカシトンボは北海道・本州・四国・九州に分布していて、東京都では西多摩・南多摩の山地に生息しています。東京都レッドデータブックでは、国のレッドデータブックの希少種（準絶滅危惧）に相当する種として扱われています。

ムカシヤンマの仲間（ムカシヤンマ科）も原始的なグループのトンボで、中生代ジュラ紀に繁栄した原始ヤンマ類の末裔と考えられています。世界に10種が知られていて、このうちの1種が日本固有種のムカシヤンマです。本州と九州に分布していて、東京都では西多摩・南多摩・北多摩の丘陵地に生息しています。東京都レッドデータブックでは、国のレッドデータブックの危急種（絶滅危惧Ⅱ類）に相当する種として扱われています。

青梅市には、この2種のトンボが両方とも生息しています。ムカシトンボは、御岳山や高水山の山地の溪流に生息していて5月に発生します。ヤゴは親になるまでに6～7年かかると言われています。御岳山では、谷間で発生したムカシトンボが山に上がってきて、ハイキングコースに沿って空間を行ったり来たりパトロールする姿をよく見かけることがあります。個体数は少ないですが黒沢川にも生息していて、標高190mでのヤゴの確認地点は、東京都のムカシトンボ生息地の最低標高地点であり東限分布地となっています。

他方、ムカシヤンマは丘陵地の谷間に生息していて、霞丘陵の黒沢川の支流や大荷田川沿いで生息が確認されています。こちらは6月に発生します。まだオニヤンマなどの夏のヤンマが出る前なので、この季節に大型のヤンマを見かけたら注意して見てください。腹部の黄色い帯の形に特徴があります。幼虫は、水際の斜面の湿った土や苔の間にトンネルを掘って生活しているため発見困難です。トンボは飛翔力があるため、成虫を見たからといって、そこが発生地とは限りません。ヤゴの調査をすると発生地が確認できるのですが、ムカシヤンマは幼虫の生息場所が特異なためヤゴ探しが困難な種です。

東京都の区市町村で、この2種のトンボが両方とも生息しているのは、青梅市と八王子市だけです。奥多摩山地と丘陵の里山という要素を併せて抱えている青梅市の自然の豊かさを証明するトンボでもあります。

(文責 久保田 繁男)